ふかまちのまど

第二六〇号　一六年一月一日
発行元　深町連合町内会
連絡先　☎六三―三八八二

連合町内会活動報告

新年のご挨拶

深町連合町内会
会長　林　洋祐

明けましておめでとうございます。町民の皆様には、希望あふれる新年をお迎えのことと、謹んお慶びを申し上げます。

旧年には、連合町内会の活動、運営に格別のご理解とご協力を頂きありがたく、役員一同心より感謝申し上げます。

衷心誠に私達を取り巻く問題も山ようなことに身近に感じるようになりました。町内に何戸有るかは知っておりませんが、空き家の承継の遊休地の問題、田畑の取り扱いに対する防災に対する幸いです。

組みなおすことを祈念申し上げます。

▲▲

短歌・俳句・詩

中組仲峠講　竹内ひろみつ

また一つ年をとるなと思いつつ
賀状書けるを幸せと思ふ

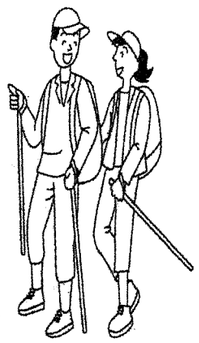
ひ孫めが家に来るのは嬉しけど
パソコンつついて電話も不通に

杖を突き歩めば一輪コスモスの
われ励ますごと咲き残りゐる

歩く会にご参加を

歩く会幹事　石井堂熙

竹原市仁賀町　仁賀ダム



月日　一月十九日（火）
予備日：一月二十一日（木）

行程
九時　〇〇分　上組公民館発（車）
十時　三〇分　仁賀ダム～
上三永の石門探訪
十二時〇〇分　探訪終了・昼食
十三時三〇分　深町帰着（車）

深小だより

新年を迎えて

今年もよろしくお願い申し上げます

深小学校校長
赤羽　邦子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、深小学校に対しまして多くの方の力添えを頂きましたことを心より感謝申し上げます。

期末学校行事の最も多かった二学期が終わっと地域の方のご協力をいただいて、教育活動がさらに充実したことを大変うれしく思っています。

今年度、六年生は学習発表会の歴史に触れました。深町の伝統、太鼓踊りの歴史を持つこれは、「きゅうぞう様」の最後に、全員で太鼓踊りを披露しました。六年生はなつかしい「太鼓踊り」の姿を見て、化粧を露払いの子供たちの歴史の秋祭りでは、文字つすなる「町民運動会、」の伝統を非常に多くの方々に支えられて小学校の学習発表会に表れました。

当日のプログラムは、「壮青会の西の前に表れました。

「太鼓踊り」は、そこのれまでの歴史の中で分かったことが学生たちが、「太鼓踊り」を感じるとい重みを思い、当日は、壮青会の方々に、準備、片付けをお手伝いしてきました。

発表会は、子供たちの役割を改めて実感しました。

また、五年生は、十一月の文化祭の徳参観日の授業で、『郷土の文化』を大切にしようとテーマで学習し、『郷土の伝統』というテーマで学習しました。

お話をいただき、お話を聞いてきました。

▲▲

「ふかまちのまど」　ホームページのアドレスは
http：//www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html

第七回文集「三原のこどもたち」

最優秀賞

くさとりしたよ

深小　一年　たにぐち　かの

「くさとりをするぞ。」おとうさんが、あさごはんのあとにいいました。わたしと、おにいちゃんは、ながズボンをはいて、スコップをもって、にわにでました。

にわには、おおきいくさや、ちいさいくさがたくさんはえていました。ひっぱってもなかなかぬけないので、ねっこをスコップでほるようにして、くさをとっていきました。

「わあ、ありのすじゃ。」おにいちゃんが、ありのすをみつけました。

「どこ、どこ。」わたしも、みにいきました。おにいちゃんが、てでありをはらうと、ありは、びっくりしてちらばっていきました。

おとうさんは、とったくさをたくさんバケツにいれて、すてにいきました。わたしも、くさはこびをてつだいました。バケツにいれたくさは、ちょっとだけおもたかったです。はこんでいると、あせがどんどんでてきました。

「ラジオをききながらやるか。」とおとうさんがいったので、わたしは、おとうさんといっしょにいえにはいって、ラジオをとってきました。ラジオをかけてくさむしりをすると、にぎやかでたのしくなりました。また、ばけつにまんたんになるくらい、くさをとりました。

「きれいになったね。」おかあさんが、にわをのぞきました。

「がんばったから、アイスをたべよう。」おとうさんがいいました。

にわは、とてもきれいになりました。みんなでくさとりをがんばってよかったとおもいました。

▲▲

深の里ぴよぴよハウスのご案内

一月の深の里ぴよぴよハウスは、小学校・地域の方々と一緒に新春ふれあい広場を開催します。大きなとんどがあるよ！もちつきが体験できるよ！バザーもあるよ！ご家族皆さんでおいでください。

「ついて、丸めて、おもちつき！（新春ふれあい広場）」

日時　一月二十四日（日）九時三十分集合

場所　深小学校運動場

持参物　エプロン・三角巾・マスク（受付　深幼稚園）

※暖かい格好で来てね！

問い合わせ先　深幼稚園　六七―七三三八

深町各種団体一月行事予定

◆連合町内会
▼ビーチボールバレー大会　十七日

◆下組町内会
▼総仏法要　十日

◆消防団
▼出初式　十日

◆小学校・幼稚園
▼始業式　七日
▼登校指導　八日
▼おたのしみ会（幼）　十二日
▼持標準学力調査　十三日
▼放課後子ども教室　十四日
▼新春ふれあい広場　二四日
▼冬季学園　二七・二八日
▼給食試食会（幼）

◆如水館中学入試・高校
▼始業式　五日
▼高校入試　七日
▼みだしなみ週間　一二日～一四日
▼大学入試センター試験　一六・一七日
▼英語検定（高校）　二二日
▼国公立二次三者面談①　二三日
▼国公立二次三者面談②　二四日

謹んでお悔やみ申し上げます

重延　佐紀子　様　六九歳
（中組仲城講）　十二月十八日

向井　二三子　様　八五歳
（上組上成瀬講）　十二月二十三日

TBG協会だより

第四回公認コース認定記念ターゲット・バードゴルフ大会

第四回公認コース認定記念TBG大会が十一月二十九日（日）、世羅町小谷コースにて行なわれました。

三原TBG協会からは金子勝彦・平岡博司・志水孝則・船本雄三・石井張司の五名が参加しました。

第五十五回三原市ターゲット・バードゴルフ大会

第五十五回三原市TBG月例大会が十二月六日（日）深町・城山コースにて行なわれました。成績は次の通りです。

一位　志水孝則（深町下組）
二位　船本雄三（〃中組）
三位　平岡博司（〃中組）
ベスグロ　六十七　船本雄三（〃中組）
二人組戦一位　林洋祐（〃上組）
金子勝彦（〃和田町）

次回大会は一月十七日（日）に実施します。

＊選手の敬称略

TBG事務局　天木雅之

▲▲

石原太郎左衛門と天草一揆⑨

大阪府立富田林高等学校
講師　寺沢光世

八、それぞれの立場

実は石原太郎左衛門は切腹を決め栖本に帰り、『原史料』三三五、三四四頁によると、一一月一七日などに細川家の使者に面会している。息子の八兵衛・久兵衛も一緒にいた。富岡籠城戦の後は『原史料』五二三頁などに息子が八代の加勢の受け入れを担当したことが見える。細川家臣の証言であるから、少なくとも息子は御所浦に退散していない。

既述のように太郎左衛門は実戦経験が豊富で、陸戦・海戦いずれも必要な人数が確保できれば一揆を鎮圧することは可能であった。しかし、太郎左衛門は武家諸法度の規定を知りながら細川藩に援軍を求め、断ってくることを確認している。太郎左衛門が臆病であれば、初めに隠れ、一揆が富岡に去ったあとに現れる筈である。しかし事実は逆で、天草における一揆の劣勢が確実になった後に姿を消している。『四郎乱物語』の作者の解釈には問題があるが、太郎左衛門が小左衛門や一揆との対決を避けたと世間が思っていたことには留意する必要がある。

島原・天草一揆の特異性は、当初はキリシタンの一揆としてその結束が図られたが、拡大の過程で二度の城攻めを行っており、戦国大名の合戦でも例がない石垣のある城を落とそうとしたことにある。すなわち、一揆の過程で統制ある軍団が結成されており、庄屋層にかわって牢人層が主導権を握った段階で軍事が優先され、信仰は民心を掌握する手段にかわったのである。小左衛門が細川藩に捕らえられたことは主導権が交代する大きな節目であった。

このように初期の天草一揆はキリシタンの一揆であり、太郎左衛門など寺沢家家臣団を巻き込もうとしたものであったが、これには事情があった。慶長一二年（一六〇七）一一月、島津家臣の伊勢平左衛門を寺沢家臣の高畠仲兵衛が斬殺する事件が起こった。この具体的な経緯については鶴田倉造「大矢野柳の御茶屋と高畑仲兵衛事件の真相」（『あまくさの民俗と伝承』七、昭和六二年九月、天草の民俗と伝承の会）に詳しいので、省略するが、島津家久の娘と寺沢広高の長男忠晴との婚約が破談になったことから起こった事件である。この理由については「盛香集」巻二（『薩藩叢書』三、明治四一年）に式部と伊集院源次郎息女と縁組であると書かれ、老人の話として「寺沢家切支丹の風説有之御違変と申事に而候」とする説を載せている。「盛香集」の作者の親は伊勢平左衛門の二男であるから、信頼できる記事である。従来この問題は寺沢志摩守広高がキリシタンであると解釈されてきた。しかし、右の文脈でわかるように疑われたのは当時八歳の長男の忠晴の周辺であり、禁教令の前であるから公然と信仰することも可能であった。元和八年（一六二二）四月、式部少輔忠晴は幽閉場所の宇木（現唐津市）で病没した。忠晴廃嫡の理由は明かではない。忠晴の動向に詳しい以心崇伝の『本光国師日記』にも何も書かれていない。しかし、忠晴がキリシタンで棄教をしなかったということであれば、誰も何も書かなかった理由として理解できる。発覚すれば間違いなく改易や死刑になったからである。実は天草四郎は寛永一五年（一六三八）に一六歳であったという説がある（鶴田倉造『Q＆A天草四郎と島原の乱』熊本出版文化会館、二〇〇八年）三七頁。四郎は元和九年（一六二三）年生まれとなり、キリシタン忠晴の生まれ変わりと解釈できる。そうすると忠晴の弟の寺沢兵庫頭堅高にとって天草四郎は特別な意味をもってくる。滅ぼされた一揆が堅高を狂わせ、自殺に追い込んだというのは説得力がない。身分制社会においては武士が従わない百姓を成敗するのは職務であり、当然だからである。恐れる理由はない。しかし、一揆の背後に兄の亡霊がいれば永久に勝てない。

鈴木重成が一揆の霊を供養した話はよく知られている。しかし、寺沢忠晴の没後に追い腹を切った中村藤左衛門（瑞林如雪居士）の菩提寺の名を瑞林寺に改称したことは知られていない。鈴木重成も寺沢忠晴主従の鎮魂を意識していたのである。

おわりに

天草の庄屋の小崎家はもと寺沢忠晴の家臣である（鶴田文史氏の御教示による）。彼らを含め、寺沢家は忠晴の死で終わったと考える人が一定数存在していた。天草の一揆も、本戸で討死した三宅藤兵衛たちも、兵庫頭堅高本人も、現状を変えることができず、死に場所を求める人であった。後世の著述家や歴史家は彼らを批判するが、石原太郎左衛門をはじめ、みなそれぞれの立場でよく耐えたことは知っておくべきである。

完▲▲

ピッコロだより
（多機能型就労支援事業所）

新年に向けて

皆様お元気で新年をお迎えの事と存じます。ピッコロ職員、利用者共に新たな気持ちで本年も皆様に良い花、良い野菜をお届けできる様、がんばっていこうと思います。

昨年の暮れに、県道沿い、ピッコロ入口付近に花の植え付けをさせて頂きました。

今後、手入れを継続させて頂く中で、地域の皆様とのつながりが、より一層強まればと思っております。興味のある方はご連絡下さい。一緒に手入れを楽しみましょう。

今年も親しい関係を続けて頂きながら、昨年同様ご指導賜る事ができれば大変嬉しく思います。

皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。▲▲

第二中学校だより

防災学習について

三原二中一年　村上　加奈

私は、この防災学習を始めるとき、あまり自分のこととして考えられませんでした。火山の噴火や川のはんらん、台風や地震など、思いつく災害はたくさんあっても、それが身近におきたときの行動をくわしく考えたことはありませんでした。しかし、授業の初めにみたビデオや、二中の職員の方などの話、実際に自分たちで劇をしたりして、学べたことが多くあります。

まず、ビデオ、職員の方の話では、今の三原のことや、災害時に大切なことが学べました。地震や津波などがおきてしまった時、どんなことをしたら良いのか、ということについては、すぐに高い所へひなんすることや、今からできることとして、家具の耐震化など、詳しく教えてもらいました。また、洪水などは、水位が少ないからといって気をぬかず、日ごろから注意をすることも大切だと分かりました。周囲の人たちと助け合う精神や毎日の生活の中で常に防災意識をもつということの大切さも学べました。

次に、実際に避難生活を体験したことについてです。体育館で行い、実際に災害がおきているわけでもないので、仲の良い友達と座り、楽しいという感じでした。しかし、職員の方の話の中で、災害時は、ここに集まっている中の多くが家が流されていたりしていると言われ、今は楽しいかもしれないけれど、本当にそうなったとき、他の人と同じ場所で暮らすということをもっと知らなければいけないと思いました。ここでは、他の人を気づかうということも学びました。

最後に、自分たちで劇をしたことについてです。私はナレーターとして出て、舞台のそでからみんなの演技をみていることの方が多かったのですが、それを演技の中の設定ではなくて、昔の、しかも私たちが今住んでいるこの三原で起こったこととしてみて、とてもその出来事が身近に感じられました。ナレーターのセリフの中にも、亡くなった人や家の状態などがはいっていて、その昔起きた災害を、ただ昔あった災害としてだけでとらえるのではなくて、そこから、今の三原までをつくり直してくれた人たちの思いも大切にしなければいけないと思いました。また、自分も、今近くでおこってはいない災害でも、それを身近なこととして考えていきたいです。今回学んだ助け合いの精神や、常に防災意識をもつということを、これからの生活で、活かしていきたいです。▲▲

防災学習を取り組んで

三原二中一年　丸山　夏奈

総合の時間に、私は、防災について学びました。一学期の時は、班ごとに分かれてインターネット・本などの資料をもとに災害について調べ、まとめました。二学期では、新聞で自分のスペースを作り体育館で、災害が起ったらどうするのかを実際に体験しながら学びました。

一学期に、私が調べたことは、広島県で土砂災害がよく起こる市についてです。調べようと思ったきっかけは、自分の住んでいる市にはどれだけの土砂災害危険個所があるか知りたいと思ったからです。調べて分かったことは、一番多い市の箇所は広島市で六〇四〇箇所です。二番目は、庄原市で二九四七箇所・三番目は、呉市で二八八四箇所でした。私たちが住んでいる三原市は、一九の市の中で八番目で一七五五箇所でした。このことから、三原市でも一七五五箇所なので、いつ起こるか予想できないけど、安全な場所や土砂災害の起こりやすそうな場所をマップを使って確認していると、もしもの時に役立つかもしれないので確認しておくことも大切だと思いました。

インターネットや本などで調べる以外でもいろんな話を聞いたり映像を見たりして分かったことがあります。それは、地震・津波・台風・豪雨などです。私が、この中で映像を見たときに、おどろかされたものがあります。地震についてです。映像は、阪神淡路大震災のころのものでした。まず、私の目に入ったものは、大きな地震のせいで建物がくずれ道路もぐちゃぐちゃになっていたところです。小学校のころにも習ったけど、話を聞いてあらためて地震のおそろしさを知ることが出来ました。

実際に食事をしたり、寝てみたりしました。私たちは、新聞紙を六枚つなげて自分のスペースをつくって体育館に広げました。初めの状態は、バラバラで友達と一緒に固っていて、他の人のスペースを通らないと行きたい場所へ行けない感じでした。でも、もう一度並び直して両壁・自分のスペースと相手のスペースの間を少しあけて並べました。すると、行きたい所へ他の人のスペースを通らなくても行けるようになったし、おじいさんやおばあさんも両壁をあけたことで、歩くのに不便じやなくなってよかったことに気づきました。

この防災学習を通して、避難した時どのようにしたら、みんなが気持ちよく使えるか知ることができたので実際になったとき、気をつけていきたいです。▲▲

次号も防災について

掲載させていただきます。